8ページ

教えて　せたがやの星　第28回

宇宙航空研究開発機構　宇宙飛行士

ほしで　あきひこ　さん

プロフィール

世田谷区立二子玉川小学校出身。慶應義塾大学理工学部機械工学科卒業後、ヒューストン　カレン　カレッジ　オブ　エンジニアリング大学航空宇宙工学修士課程修了。宇宙開発事業団（現　宇宙航空研究開発機構）でのエイチツーロケットなどの開発業務等を経て、1992年に宇宙開発事業団（現　宇宙航空研究開発機構）に入社。1999年に日本人宇宙飛行士の候補者として選抜後、2001年に宇宙飛行士として認定される。2008年、2012年、2021年に国際宇宙ステーションへ向かい、様々な研究実験や船外活動等に従事した。

宇宙航空研究開発機構　宇宙飛行士の　ほしで　あきひこさんへインタビュー。子どもの頃より憧れ続けた宇宙への旅。夢に向かって挑戦し続けた道のりと、その先に広がる宇宙の景色やこれからの目標についてお話をうかがいました。

もう一歩踏み出してチャレンジしてほしい

宇宙への憧れと挑戦

ご出身の区立二子玉川小学校ではどのように過ごしていましたか。

二子玉川小学校は、多摩川に非常に近いということもあり、愛鳥モデル校として、野鳥の観察に力を入れていた学校でした。学校では、友達と川や近隣の林へ行き、鳥を見たりということもしていましたが、家でテレビを見たり、河原へ行って遊んだり、いろいろやっていたような記憶があります。また、宇宙に行きたいという思いが強くなり始めていた頃で、毎年、将来の夢を作文にするときに、パイロット、警察官、消防士とか、いろいろなことを書きつつも、やっぱり宇宙に行きたいと思っていました。

当時は、スター　ウォーズ　が出てきた時代であり、宇宙戦艦ヤマト　とか　銀河鉄道999　がはやっていたので、そういったところに影響を受けつつ、宇宙に対する憧れがありました。

実際に宇宙飛行士になろうと思ったきっかけは何ですか。

私が高校生の時に、初めての日本人宇宙飛行士、毛利さん、向井さん、土井さんが選ばれたことを受けて、宇宙飛行士という職業があるんだ、宇宙飛行士になれば宇宙に行けるんだ　というのが急に現実味を帯びて、それ以降、頭の片隅で、宇宙飛行士になるためにはどうしたらいいんだろう　と常に考えていました。

宇宙飛行士になるために、学生時代はどのようなことをしていましたか。

英語と国際感覚は身につける必要があると思い、高校生のときにシンガポールの学校に2年間留学しました。英語を身につける、いろいろな国の人たちとやり取りができるようにしたいという思いから、留学に踏み切りました。

また、大学では機械工学を専攻し、理系に進みました。どうやったら宇宙飛行士になれるのかどこにも書いていないし、参考書や予備校があるわけでもないので、自分で考えて、できることをやるぐらいしかなかったですね。

宇宙飛行士になるための訓練で印象に残っていることを教えてください。

大変だったのは、サバイバル訓練です。宇宙から帰る際に、救助隊がいる場所に帰ってくることが計画されますが、宇宙で緊急事態があって急いで帰ってくる場合は、寒いロシアの山の中に降りる可能性もあるので、そういったときに生き延びられるように、サバイバル訓練をやりました。寒いし、おなかはすく中で、木を切ってたき火をしたり、テントをつくったり、体力的にきつい訓練でした。そのときはつらいと思いましたが、新しい知識　スキルを身につけることができ、やってよかったと思いました。

宇宙から見た地球の美しさとチームの結束力

実際に宇宙を飛んでみてどのようなことを感じましたか。

宇宙ステーションにキューポラという大きな窓があって、そこはもう離れがたいところでした。10分ぐらい地球を見ようかな　と思って行くと、2時間ぐらい時間が過ぎ去っていたという経験が何度もありました。90分で地球の周りを1周するため、山、森、海、砂漠、夜の街の明かりなどいろいろな景色が次々と現れて、ものすごく美しいんです。これはもう写真とかでは切り取れない。自分の目で見る、自分の肌で感じるからこその美しさだと思います。

また、無重力空間では、壁から壁まで蹴って跳んでいったり、ぷかぷかと物を浮かばせることもできるし、そういったところが楽しくて、不思議な空間です。

そして、宇宙ステーションを開発している人たちや、インストラクター、健康管理をしてくれる医師、宇宙にいる仲間、地上の管制チームの人たちがいる中で、宇宙で様々な研究実験をすることになりますが、熱意と工夫と努力を怠らない人たちの中で一緒に仕事をさせてもらっていることに非常に幸せを感じます。

今後の目標について

また現役として宇宙に行きたい、できれば月に行きたいと思っています。これは、世界中の宇宙飛行士が思っていることだと思います。

もう一歩踏み出してチャレンジしてほしい

最後に、世田谷区の子どもたちへメッセージをお願いいたします。

例えば、受験だとかスポーツだとか、いろいろな世界で壁にぶち当たることがあるとは思いますが、そこでもう一歩踏み出してチャレンジしてほしいと思います。私も、試験を3回受けて宇宙飛行士になれましたが、1回目あるいは2回目で挫折して、3回目の受験に踏み切らなければ、今ここでこうしてお話ししていなかったわけです。

それから、いろいろな経験をしてほしい。宇宙で活動するクルーの中には、様々なバックグラウンドを持った人たちがいます。パイロット、エンジニア、医師など、いろいろな人がいる中で、それぞれの経験を持ち寄って1つの大きな強いチームとして、宇宙で活動しています。私は宇宙飛行士になる前はエンジニアでしたが、どんな職業に就くにしても、いろいろな経験をして、いろいろなことを身につけて強くなっていってほしいと思います。

問い合わせ先　教育総務課　電話5432-2745　ファックス5432-3028